

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 10 日現在

機関番号：12613

研究種目：基盤研究(B) (海外学術調査)

研究期間：2013～2016

課題番号：25300033

研究課題名(和文) 近現代太湖流域農山漁村における自然資源管理に関する現地調査

研究課題名(英文) A field survey on management of natural resources in the Lower Yangtze Delta in modern and contemporary China

研究代表者

佐藤 仁史 (SATO, YOSHIFUMI)

一橋大学・大学院社会学研究科・教授

研究者番号：60335156

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 11,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、1940年代から1950年代を中心とする中国近現代期の、太湖流域農山漁村における共同自然資源管理・利用の史的変遷に関する現地調査を行った。特に、従来研究が手薄であった山村の調査に重点を置いた。具体的なアプローチとして、聞き取り調査や景観調査を主とするフィールド調査、各種地方文献(民国期～中国建国直後の時期のトウ案史料、や族譜、個人的記録資料)の収集・分析、を採用した。そして、成果の一部は『近現代太湖流域農山漁村における自然資源管理に関する現地調査』(科研費基盤研究B報告書、全345頁、2017年3月)に纏め、一橋大学機関リポジトリで公表した。

研究成果の概要(英文)：In this research, we performed the field study on the historical changes in the management and use of natural resources in the Lower Yangtze Delta in modern and contemporary China, especially the period between 1940's and 1950's. We emphasized on the analysis of the mountain area which had not studied enough before. As the practical method for research, we have mainly adopted the following approaches: field study such as oral history and landscape research; collecting and analyzing several kinds of local materials (local archives, genealogies and ego documents). Part of the achievements has been compiled as a report (Kingendai Taikoryuiki nosangyoson niokeru sizenkanri nikansuru genchichosa, Hitotsubashi University, 2017.3).

研究分野：中国近現代史

キーワード：近現代中国 太湖 農村 山村 漁村 自然資源 現地調査 環境史

1. 研究開始当初の背景

(1) 近現代中国基層社会史研究は、土地制度史や村落構造をはじめとする様々な領域において成果が蓄積されてきた。その中で、満鉄慣行調査班による中国農村慣行調査以来の村落共同体研究は重要な位置を占めてきた。これらの研究の主題である伝統中国の農村における村落共同体の有無、共同性の特質とは何かという問題は論者によって評価が大きく分かれている。内山雅生は伝統中国における共同体の存在を認めるのに対して、Prasentit Duara や上田信らは村落共同体の存在を明確に否定した。中国基層社会に共同体が存在しなかったのなら、「共同性」はどのようになり立っていたのか、中華人民共和国建国後それがどのように変容したのか、が解明されなければならないだろう。この問いが本研究の重要な出発点の一つである。

(2) 上記の問いに関連して、高い開放性を有した太湖流域農村に特徴的である文化統合を主とする社村という形態が有する「共同性」について、研究代表者は2009-2011年度科研費若手研究B「中国建国初期、江南郷鎮社会の再編に関する現地調査」において、中華人民共和国建国後における再編過程を分析した。また、連携研究者として参加した2008-2011年度科研費基盤研究B「解放前後、太湖流域農漁村の『郷土社会』とフィールドワーク」(研究代表者太田出)では、近代の太湖流域農村における共同慣行や協同関係、太湖流域漁村における水面利用や生業上の協同関係についての基礎的調査を行った。かような研究過程において直面したのは、農村以外の漁村・山村も太湖流域社会の自然環境を構成する重要な一部であるにもかかわらず、これらの研究が欠如している状況である。

(3) また、方法論においても、自然資源の収奪・循環という環境史的な観点やローカルコモンズ論をはじめとする視点を導入して農村、山村、漁村それぞれの実態を解明し、総体的に基層社会を捉えることの必要性が強く認識されたことも、本研究課題を着想するに至った背景である。

2. 研究の目的

本研究では以下の三点の主要目的を設定した。

(1) 農村、漁村、山村における共同自然資源の管理・利用について。従来の中国基層社会史研究では農村を対象とするものが大多数を占め、明示的に漁村や山村を対象としたものは寥々たる状況にある。したがって、本研究における目的に、漁村や山村における自然資源の管理・利用に関する事例を蓄積することがある。夙に指摘されているように、中国農村・山村には日本の入会地の如き共有地が存在していなかった。かかる状況のもと、自然資源管理・利用はいかに行われていたの

かについて実態を掘り起こすことを目指す。

(2) 地方文献と聞き取り調査による在地慣行の実態の解明。地方文献の収集・読解については、浙江の江蘇の県市級図書館・檔案館において、地方檔案や地方紙などを精査し、民国期～1950年代にかけての関連史料を抽出する。とりわけ、山地や水面の境界をめぐる紛争の記録に注目した。文献に十分には表れない、在地における自然資源に関する権利・義務意識については、基層幹部を務めた人物を中心として、聞き取り調査などの現地調査を実施して不足を補う。

(3) 自然資源管理・利用からみた基層社会構造の歴史的変容。太湖流域を中心とする農山漁村における共同自然資源管理・利用の具体的事例を蓄積した後に、その背後にある社会関係や社会構造の特質の分析に駒を進める。農村・漁村・山村それぞれの特徴を明らかにし、異なる類型における共通点と相違点を明らかにした上で、これらを総合的に捉える枠組みについて初歩的な検討を行う。

3. 研究の方法

(1) 分析枠組み及び手法上で最も顕著なのが、中国基層社会史研究を軸としつつ、環境史的な観点やローカルコモンズ論をはじめとする視点を導入して、太湖流域の農村・漁村・山村における共同自然資源管理・利用の実態とその背後にある社会関係や社会構造の特質を分析するという手法を採った。主要命題は、伝統中国期の基層社会における共同性はどのような形で成立していたのか、国家による基層社会の再編によってかかる共同性がどのように変化したのか、の2点である。

(2) 種々の地方文献の収集・分析も主要な方法の一つである。本研究開始以前に既に収集していた新聞資料から関連記事を抽出する作業を進めると同時に、従来までの調査で存在を確認した呉江県や青浦県の市鎮で発行された新聞の関連記事を調査することを目指した。また、地方檔案館における公文書の調査・収集では、もっとも手薄であった山村に重点を置き、浙江省檔案館や建徳市檔案館を主要な調査対象とした。

(3) フィールドワークでは次の三点に重点を置くこととした。口述調査。事前に十分な予備調査を行い、定点観測を実施する対象としたいくつかの村において老幹部や老農民に口述調査を実施することである。解放前の状況を知る老人は既に80歳を超えており、調査は急務であるからである。景観調査。文献史料や口述調査で言及された地名等を確認したり、生態環境の実態を把握したりするために必要な作業である。エゴ・ドキュメントの収集。中華人民共和国成立後に基層幹部を務めた人物が残した日記や回想録、家計簿屋帳簿といったエゴ・ドキュメントを積極的に発掘することに務めた。

4. 研究成果

(1) 本研究課題で得られた成果を総括すると、以下の二点に大別される。第一は、近代太湖流域農漁村における自然資源管理の背景にある基層社会構造や文化的社会的統合に関する調査・研究の進展である。この点については、農村や漁村における社会組織や文化統合に関する調査・分析に重点を置いた。農村については、土地売買、金銭の貸借、水利などの側面において緩やかな共同性を有するに過ぎなかった点、個別に築かれた関係も大きな位置をしめた点にも商業化が高度に進展した江南農村の特徴を踏まえつつ、いわば「個人事業主」が折り結ぶ関係の網とも言える近代江南の状況についてさらなる実証分析を加えた。水上民社会についても、漁業や水運業といった生業や信仰生活について、太湖流域及び錢塘江流域の状況に即して調査・分析を深化させた。

山村については、従来の蓄積が必ずしも十分ではなかったため、文献調査においてもフィールドワークにおいても、基礎的な事実の発掘に努めた。特に浙江省建徳市、桐廬県、龍泉市の山村におけるフィールドワークに重点を置き、その結果、宗族組織との関連において議論が進められてきた明清期～近代期に至る時期の山林管理や利用について、錢塘江流域の山地・山林所有において族産が占める割合は多くなく、個人地主の所有が多くを占めたこと、また寧波の資本家など外部の資本家による山林所有が進展していたことが明らかにできた。かような山林所有状況においてローカルコモンズはどのように成立しうるのか、換言すれば、「私」の中における「共」とはいかなる形態を採ったのかについても基礎的な知見を得た。

(2) 本研究において導入した方法論上の試みの一つに地方文献史料の蒐集と活用がある。先ず、地方文献史料収集・分析の前提となる概括的な史料については、中国第一歴史檔案館や台湾国史館などにおいて、清代・中華民国期の林政や山林を巡る紛争処理に関する史料を収集し、各自の問題関心に沿って分析を行った。

地方文献調査については以下の如き活動を行った。まず、太湖流域農漁村の基層社会構造に関する調査では、蘇州市図書館、蘇州市檔案館、呉江図書館、呉江檔案館、上海市檔案館、上海図書館、浙江省図書館などにおいて、地方志、地方新聞、地方檔案の調査・蒐集を実施した。また、地方文献の編者や執筆者を可能な限り訪問し、執筆情報の出典にまでさかのぼることに努めた。錢塘江流域の山村については、建徳市檔案館、桐廬県檔案館、浙江省図書館を中心として、民国期～1950年代における社会主義改造、集団化に関する檔案史料などを集中的に収集した。これらは膨大な量にのぼるため、先行研究や他の史料群を参照しつつ整理・分析をすることが

今後の課題である。

(3) 方法論上のもう一つの特徴はフィールド調査である。研究代表者が従来参加してきたフィールド調査においても口述調査に重点を置いてきており、本課題でも積極的に行った。口述調査の成果は次の通りである。太湖流域農村において文化的統合の核となる民間信仰や芸能についての聞き取り調査を、芸人や宗教職能者、老農民に対して実施した。錢塘江流域山村については、土地改革期における土改小組の幹部経験者、集団化期における生産隊会計担当者などから、中華民国期～1980年代における山林利用に関する聞き取り調査を実施した。

本課題におけるフィールドワークにおいては当初予定していなかった収穫を得ることが出来た。それは種々の民間所蔵資料の収集、特にエゴ・ドキュメントの収集である。これらは、元生産隊会計が保管していた生産隊の帳簿や、他の元生産隊会計が執筆した種々のエゴドキュメント(回想録、生活記録など)などからなる貴重な史料群である。これらの詳細な分析を通じて、中華人民共和国期の山村における労働・生活に関する微視的な研究が可能になる。

(4) 本課題では海外での調査に加えて、海外の研究者との学术交流や研究成果の発信にも力を注いだ。2014年7月には「中国の山区社会と流域史」シンポジウムを、2016年7月には、第2回「中国の山区社会と流域史」シンポジウム及び「江南地域社会史研究の回顧と展望」ワークショップを、海外の研究者を複数名招聘して実施した(『近現代太湖流域農山漁村における自然資源管理に関する現地調査』)。研究代表者が進めてきた江南地方の地域性を明らかにしつつ、他の地域との比較を行うための材料や分析枠組みを検討し、中国基層社会史研究をより高い次元に進めるための論点を洗い出すことが出来た。

また、研究成果の発信においては、メンバーが多数の成果を生み出したことは以下に掲げるが如きである、

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 28件)

- (1) 山本真「郷里空間の統治と暴力 危機下の農村における共同性の再編と地域自治政権」小嶋華津子、島田美和編著『中国の公共性と国家権力 その歴史と現在』慶應義塾大学出版会(図書所収論文)、2017年、105-130頁、査読無し。
- (2) 山本真「山林資源の民間における共同管理と国家による掌握・開発の試み 近代福建省の事例から」佐藤仁史編『近現代太湖農山漁村における自然資源管理に関する現地調査』平成25-28年度科学研究費補助金基盤研究B研究成果報告書(図書所収論文)、303-336頁、2017年、査読無し。
- (3) 村松弘一・恵多谷雅弘・鶴間和幸ほか

- 「多衛星データを用いた秦帝国の空間的考察」『学習院大学国際研究教育機構研究年報』通巻3号、89-112頁、2017年、査読有り。
- (4) 佐藤仁史「近現代中国における民間信仰と「迷信」の表象——江南地方の場合」関根謙編『近代中国 その表象と現実——女性・戦争・民俗文化』平凡社(図書所収論文)、314-340頁、2016年、査読無し。
- (5) 佐藤仁史「被切断的記憶: 従一位「富農」の敘述看近代江南的農村社会」『東吳歴史学報』通巻36期、7-37頁、2016年、査読有り。
- (6) 山本真「日中戦争前期、サラワク華僑の救国献金運動と祖国の表象」関根謙編『近代中国 その表象と現実——女性・戦争・民俗文化』平凡社(図書所収論文)、2016年、156-183頁、査読無し。
- (7) 山本英史「近代中国と溺女認識」関根謙編『近代中国 その表象と現実——女性・戦争・民俗文化』平凡社(図書所収論文)、17-39頁、2016年、査読無し。
- (8) 宮原佳昭「近代中国の学校管理法教科書に関する一考察——謝冰・易克ゲツ訳『学校管理法要義』を手がかりに」『アカデミア社会科学編』通巻11号、35-58頁、2016年、査読有り。
- (9) SATO Yoshifumi “The Recent History of the Fishing Households of the Nine Surnames: A Survey from the Counties of Jiande and Tonglu, Zhejiang Province” in He Xi and David Faure eds. *The Fisher Folk of Late Imperial and Modern China: A Historical Anthropology of Boat-and-Shed Living* (London: Routledge), pp173-182, 2015, 査読有り。
- (10) 佐藤仁史「近代江南の漁民と信仰——以天主教為中心」『近代中国基督教史研究集刊』通巻10期、107-118頁、2015年、査読無し。
- (11) 山本真「日中戦争時期、福建省における戦時総動員と地域社会」『史学』84巻1-4号、351-389頁、2015年、査読有り。
- (12) 太田出「東・東南アジアにおける国民国家の形成と船上生活漁民——文献史料とフィールドワークの射程」『史学研究』289号、27-72頁、2015年、査読無し。
- (13) 山本英史「東アジアにおける官箴書の普及について」『史学』85巻1-3号、141-162頁、2015年、査読有り。
- (14) 山本英史「近代蘇州基層社会復元の試み——鄉村管理者に関する聞き取り調査: 附聞き取り記録」『史学』83巻4号、1-65頁、2015年、査読無し。
- (15) 村松弘一「中国古代関中平原の水利開発と環境——鄭国渠から白渠へ」『史学』85巻1-3号、119-139頁、2015年、査読有り。
- (16) 村松弘一「陝西省関中三渠をめぐる古代・近代そして現代」北川秀樹編『中国乾燥地の環境と開発——自然、生業と環境保全』成文堂(図書収録論文)、175-196頁、2015年、査読無し。
- (17) 佐藤仁史「近代江南の漁民と天主教」『歴史評論』765号、37-46頁、2014年、査読無し。
- (18) 山本真「晏陽初と陶行知——平民教育から農村改良へ」村田雄二郎ほか編『講座『東アジアの知識人 4 戦争と向き合って』有志舎(図書所収論文)』66-83頁、2014年、査読無し。
- (19) 山本真「20世紀初頭の福建南西部客家社会と革命運動——宣教師文書から読み解く」『歴史評論』765号、47-57頁、2014年、査読無し。
- (20) 山本真「20世紀前半、福建省福州、興化地区から東南アジアへの移民とその社会的背景——キリスト教徒の活動に着目して」『21世紀東アジア社会学』6号、31-47頁、2014年、査読有り。
- (21) 山本真「東マレーシア・サラワク華人社会と日中戦争・太平洋戦争——サラワク州クチン・シブでの調査記録」『中国研究月報』68巻5号、38-49頁、2014年、査読有り。
- (22) 山本真「中日戦争時期的福建省戦時体制、糧食管理と敵家滄」吳淑鳳編『轉型關鍵——敵家滄先生与台湾經濟發展』台北、国史館(図書収録論文)、1-36頁、2014年、査読有り。
- (23) 宮原佳昭「民国初期の湖南省における教育行政と学校管理」森時彦編『長江流域社会の歴史景観』京都大学人文科学研究所附属現代中国研究センター(図書所収論文)、347-381頁、2014年、査読無し。
- (24) 相原佳之「清代貴州省東南部の林業経営と白銀流通」張新民主編『探索清水江文明的踪迹——清水江文書与中国地方社会』國際學術研討會論文集』成都、巴蜀書社(図書収録論文)、546-571頁、2014年、査読無し。
- (25) 佐藤仁史「従地方報看江南市鎮社会在1920年代的嬗變——以新南社的活動為中心」連玲玲編『万象小報——近代中国城市的文化、社会与政治』中央研究院近代史研究所(図書所収論文)307-408頁、2013年、査読有り。
- (26) 佐藤仁史「日本の近現代中国基層社会史研究——田野調査」石之瑜、何培忠編『戦後日本の中国研究——口述知識史(第二冊)』国立台湾大学政治学系中国大陸ji兩岸關係教学与研究センター(図書所収論文)229-255頁、2013年、査読無し。
- (27) 佐藤仁史「民間信仰からみる江南農村と華北農村」本庄比佐子編『華北の発見』汲古書院(図書所収論文)201-226頁、2013年、査読無し。
- (28) 太田出「太湖流域漁民の香頭と贊神歌——非物質文化遺産への登録と創り出された『伝統』」水上正ほか編著『近現代中国の地域社会と芸能——皮影戲・京劇・説唱』好文出版(図書所収論文)31-63頁、

2013年、査読無し。

〔学会発表〕(計 32件)

- (1)村松弘一「関中における灌漑と塩地」国際シンポジウム「中国渭河流域の水利環境の変遷」、2017年2月21日、学習院大学(東京都目白区)。
- (2)村松弘一「漢代における災害救済の変化と環境」国際シンポジウム「中国古代の災害と環境」、2017年1月20日、学習院大学(東京都目白区)。
- (3)相原佳之「近代中国における造林の展開と民生――官荒の取り扱いを中心に」戦略的研究基盤形成支援事業「ユーラシアにおける『生態経済』の史的展開と発展戦略」「山林・原野・耕地」クラスター研究会、2016年11月24日、慶應義塾大学(東京都港区)。
- (4)佐藤仁史「従民間芸能看江南農村和信仰」AOE Workshop on Local Society and its Religious Institutions、2016年9月29日、香港中文大学歴史人類学中心(香港)。
- (5)佐藤仁史「芸能・民間信仰からみる近現代江地域社会史――宣卷(宝卷)を事例に」「江南地域社会史研究の回顧と展望」ワークショップ、2016年7月2日、慶應義塾大学三田キャンパス南校舎 471 教室(東京都港区)。
- (6)相原佳之「生存資源供給源としての山野の役割――清代中国を事例とした考察」, 第2回「中国の山区社会と流域史」シンポジウム、2016年7月2日、慶應義塾大学(東京都港区)。
- (7)村松弘一「秦漢時代関中平原の環境と馬」国際シンポジウム「古代東アジア都市の馬と環境」、2016年1月23日、学習院大学(東京都豊島区)。
- (8)佐藤仁史「フィールドで集める史料、フィールドで読む史料」南山大学アジア・太平洋研究センター主催シンポジウム「史料をめぐる「冒険」――近現代中国地域史研究の場合」、2016年1月9日、南山大学(愛知県名古屋市)。
- (9)佐藤仁史「民俗“復興”の時代性: 宣卷与江南農村的民俗生活」“全球史視野下的江南文化与社会变迁”国際学術研討会、2015年11月14日、蘇州科技学院(蘇州・中国)。
- (10)村松弘一「中国古代関中平原の歴史空間学――複合情報の統合化」史学会大会シンポジウム「歴史空間学の可能性」、2015年11月14日、東京大学(東京都文京区)。
- (11)山本英史「近代中国における“陋俗”改革とその言説――溺女問題を素材にして」歴史人類学会第36回大会、2015年11月8日、筑波大学東京キャンパス文京校舎(東京都文京区)。
- (12)佐藤仁史「従林産看近代銭塘江流域社会――以建德和桐廬の口述調査を中心」2015年中国社会科学論壇: 中国古代社会变化与思想变迁国際学術研討会、2015年11月6日、中国社会科学院歴史研究所(北京・中国)。
- (13)MURAMATSU Koichi “Image of Loess Plateau in China: The environmental history of the Qin-Han Empire” “Association for East Asian Environmental History (AEAHEH)(国際学会)” 2015年10月24日、Kagawa University(Takamatsu City, Kagawa Prefecture)
- (14)AIHARA Yoshiyuki “Forests as commons in early modern China: an analysis of legal cases” “XVIIITH World Economic History Congress(国際学会)” 2015年8月6日、Kyoto International Conference Center(Kyoto City, Kyoto Prefecture)
- (15)山本真「民国時期から人民共和国初期にかけての宗族と国家――福建省の事例から」ワークショップ「激動期東アジア諸地域の間団体と国家――中国・日本・台湾」, 2015年7月18日、上智大学(東京都千代田区)。
- (16)山本真「1930~40年代、福建省の国民政府統治与地域社会--以龍岩県の保甲制度、土地調査・扶植自耕農、合作社を中心」明清以来的国家認同与国家認同学術検討会、2015年3月29日~2015年3月30日、華東師範大学(上海・中国)。
- (17)AIHARA Yoshiyuki “Forests as commons in early modern China: an analysis of legal cases” Workshop on “Public Goods Provision in the Early Modern Economy: Role of the Regional Society in Japan, China and Europe” , 2015年3月22日、東京大学(東京都文京区)。
- (18)佐藤仁史「被切斷的記憶: 従一位『富農』的講述看近代江南的農村社會」中央研究院近代史研究所主催「従口述歴史尋找新議題」工作坊、2015年3月20日~2015年3月21日、中央研究院近代史研究所(台北・台湾)。
- (19)山本真「中国僑郷と東南アジア移民先社会研究に関する双方向的視座――福建省福州・金門; サラワク・シンガポールの事例から考える」International Workshop “The Chinese Emigration from Fujian Province to South East Asia, Cases of Fuzhou, Jinmen and Sarawak, Singapore”, 2014年11月9日、筑波大学東京キャンパス(東京都文京区)。
- (20)佐藤仁史「江南農村的宣卷与民俗生活: 著眼於芸人与客戸之間的关系」中国宝卷研究国際研討会及中国俗文学学会 2014年学術年会、2014年10月18日、揚州大学文学院(揚州・中国)。
- (21)相原佳之「清代中国における山の利用と管理――刑科題本(裁判史料)を中心とした事例研究」第14回環境史研究会ワークショップ、2014年10月18日、東京大学(東京都文京区)。
- (22)佐藤仁史「従満鉄上海事務所来看日本の華中調査」中央研究院近代史研究所主催「全

球視野下的中国近代史研究」国際学術研
討会、2014年8月12日、台湾中央研究院
近代史研究所(台北・台湾)。

(23)宮原佳昭「近代林業と浙江林業教育研
究の可能性」“中国の山区社会と流域史”学
術討論会、2014年7月5日、慶應義塾大学
(東京都港区)。

(24)佐藤仁史「太湖流域社会史の回顧と研究
方法——以廟会組織を中心」台湾大学歴史
学系における講演(招待講演)、2014年3
月27日、台湾大学歴史学系(台北・台湾)。

(25)YAMAMOTO Shin “Historical Research on
Sarawak under the Japanese Occupation in
World War ” Faculty of Social Sciences
Universiti Malaysia Sarawak(招待講演)、
2014年3月11日、Universiti Malaysia
Sarawak(サラワク・マレーシア)。

(26)山本英史「近代蘇州基層社会復元の試み
——郷村管理者に関する聞き取り調査」北
海道大学第264回東洋史談話会、2014年2
月1日、北海道大学(北海道札幌市)。

(27)山本英史「近代蘇州地方郷村役的地域
性」南開大学中国社会史研究中心学術講座
(招待講演)、2013年12月24日、中国南
開大学中国社会史研究中心(天津・中国)。

(28)山本真「中日戦争時期的福建省戦時體制
糧食管理與嚴家淦」『嚴家淦先生與台灣經濟
發展國際學術討論會』2013年12月16日、
台湾国史館(台北・台湾)。

(29)佐藤仁史「近代江南の漁民と天主教」第
9届文化交流史ji輔大歴史学系在台50週
年:伝承と涵化國際学術研討会、2013年11
月8日、台湾輔仁大学(台北・台湾)。

(30)相原佳之「清代貴州省東南部の林業経営
と白銀流通」清水江文書与中国地方社会
國際学術研討会、2013年10月21日、中国貴
州大学(貴陽・中国)。

(31)山本真「民国時期、福建省における武装
化した社会と国民政府による国民統合・戦
時動員の挫折」2013年度アジア政経学会東
日本大会、2013年10月12日、早稲田大学
(東京都新宿区)。

(32)佐藤仁史「近代钱塘江流域の山区社会
林産の流通と生産を中心」浙江大学地方
歴史文書編纂と研究中心ほか主催“龍泉司
法檔案研究”学術研討会、2013年8月21
日、中国浙江省龍泉市政府(龍泉・中国)。

〔図書〕(計 6件)

(1)佐藤仁史編(卜永堅、吳滔、杜正貞、唐立
宗、相原佳之、陳明華、村松弘一、山本英
史、佐藤仁史、宮原佳昭、山本真、王丹萍
著)『近現代太湖流域農山漁村における自
然資源管理に関する現地調査(平成25
28年度科学研究費補助金 基盤研究B研究
成果報告書)』一橋大学佐藤仁史研究室、
2017年、全345頁。

(2)山本英史『赴任する知県——清代の地方行
政官とその人間環境』研文出版、2016年、
全386頁。

(3)村松弘一『中国古代環境史の研究』汲古
書院、2016年、全495頁。

(4)山本真『近現代中国における社会と国家
——福建省での革命、行政の制度化、戦時
動員』創土社、2016年、全461頁。

(5)太田出『中国近世の罪と罰——犯罪・警
察・監獄の社会史』名古屋大学出版会、2015
年、全508頁。

(6)吳滔、佐藤仁史『嘉定県事——14至20世
紀江南地域社会史研究』広東人民出版社、
2014年、全316頁(担当:153-203、
240-291、312-316頁)。

〔その他〕

ホームページ等

佐藤仁史編『近現代太湖流域農山漁村にお
ける自然資源管理に関する現地調査』平成25
~28年度科学研究費補助金(基盤研究(B))
研究成果報告書(研究課題番号25300033)
[http://hermes-ir.lib.hit-u.ac.jp/rs/han
dle/10086/28524](http://hermes-ir.lib.hit-u.ac.jp/rs/handle/10086/28524)

6. 研究組織

(1)研究代表者

佐藤 仁史(SATO YOSHIFUMI)

一橋大学・大学院社会学研究科・教授
研究者番号:60335156

(2)研究分担者

太田 出(OTA IZURU)

京都大学・人間・環境学研究科・教授
研究者番号:10314337

山本 真(YAMAMOTO SHIN)

筑波大学・人文社会科学研究科・准教授
研究者番号:20316681

宮原 佳昭(MIYAHARA YOSHIKI)

南山大学・外国語学部・講師
研究者番号:60611621

(3)連携研究者

山本 英史(YAMAMOTO EISHI)

慶應義塾大学・文学部・名誉教授
研究者番号:90127796

稲田 清一(INADA SEIICHI)

甲南大学・文学部・教授
研究者番号:60221777

村松 弘一(MURAMATSU KOICHI)

学習院大学・東洋文化研究所・教授
研究者番号:70365071

相原佳之(AIHARA YOSHIYUKI)

東洋文庫・研究部・研究員
研究者番号:00634437